

企画展

宿場から明治の川崎へ

維新後、明治四年に伝馬・飛脚制度が廃止され、川崎は「宿場」としての役目を終えます。さらに翌五年には、新橋・横浜間に陸蒸気が開通して、「川崎ステーション」もつくられました。そうすると、もはや宿場としての機能は必要となくなり、いつときの川崎は火の消えたような寂しい町になってしまいます。

そこから川崎は町の姿かたちを大きく変えていきます。新時代の川崎は、新しい産業を迎え入れることで発展への礎を築いていきました。明治後半には、川崎から大師までの間に、人力車・馬車以外の新しい交通機関を作ろうと、東日本で最初の電車である「大師電気鉄道」が開通しています（今の京浜急行大師線）。やがて、味の素や東芝、明治製糖、日本コロムビアといった会社が次々と立地し、農業・漁業で成り立ってきた川崎は、産業の都市へと変わっていったのです。



六郷川の鉄橋



大師堤花のトンネル



大師門前



日本蓄音機



明治製糖



旧東海道筋八丁囃の光景 明治43年



川崎道

2024年
令和6年

4月6日(土)～

5月26日(日)

開館時間：9:00～17:00

休館日：月曜日(祝日の場合翌平日休館)

会場：東海道かわさき宿交流館3階企画展示室

〒210-0001 川崎市川崎区本町1-8-4
【TEL】044-280-7321

東海道かわさき宿交流館